

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 38 号

第 38 週(9月 19日 ~ 9月 25日)

発行年月日:平成17年(2005年) 10月 3日

発行 :滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1) 全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (38週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (38週)	全国 (38週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	<sup>(*)2</sup> 6	423	9	576
	腸チフス	0	0	37	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	12	2,732	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	<sup>(*)3</sup> 32	1	34
	A型肝炎	0	1	<sup>(*)3</sup> 134	0	136
	オウム病	0	1	28	1	39
	デング熱	0	1	51	2	45
	マラリア	0	0	48	2	73
	レジオネラ症	1	2	171	0	162
5類感染症	アメーバ赤痢	0	3	502	8	580
	ウイルス性肝炎	0	1	203	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	<sup>(*)4</sup> 2	109	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	43	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	4	847	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	51	2	85
	梅毒	0	0	388	4	516
	破傷風	0	0	73	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	54	0	49
急性脳炎	0	2	<sup>(*)3</sup> 137	1	164	

- \*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。
- \*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。
- \*3:平成17年第36週現在の報告数です(idWR掲載の報告数を参考にしてます)。
- \*4:先週、届出のあった1名については届出が取り消されたため、滋賀県における累積報告数は2名です。

### 2) 定点把握の対象となる5類感染症

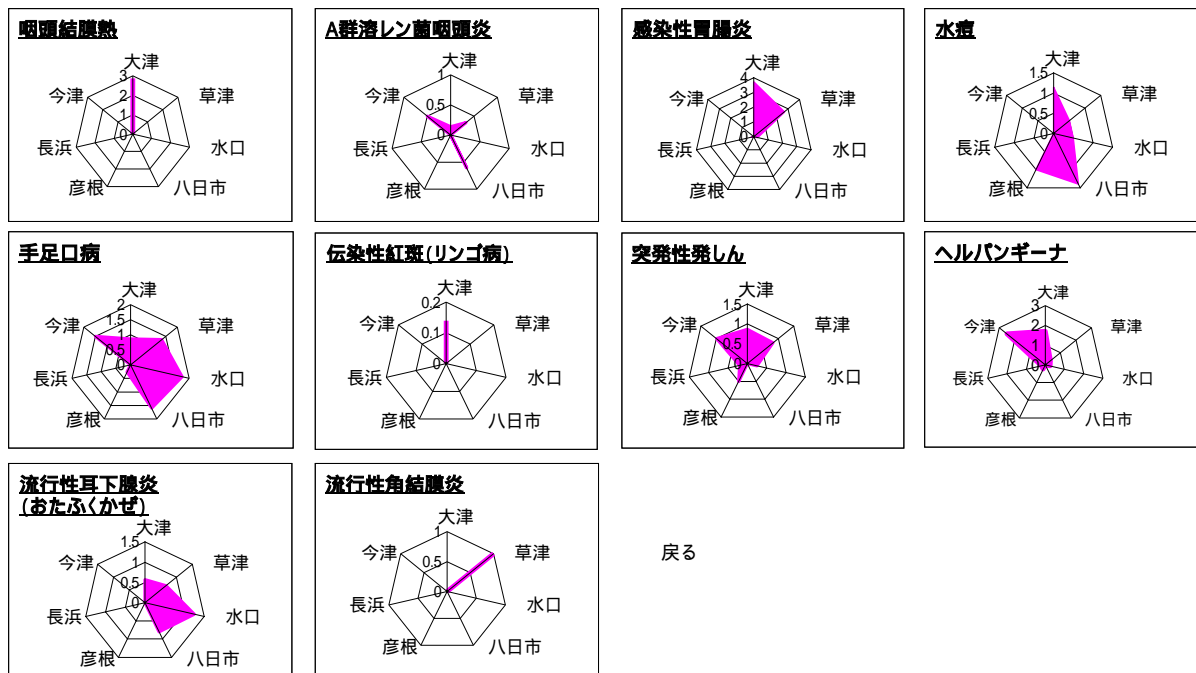
#### (1) 疾病別・週別発生状況(第33~38週、8/15~9/25)

疾患名	定点当たり患者数 ( 前週より増加 前週と同じ 前週より減少 )										
	33週	34週	35週	36週	37週	38週	週				
	(8/15~)	(8/22~)	(8/29~)	(9/5~)	(9/12~)	(9/19~)	34	35	36	37	38
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0.58	0.73	0.76	0.70	0.64	0.61					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.03	0.12	0.18	0.18	0.33	0.21					
感染性胃腸炎	1.06	1.55	1.30	1.36	1.94	1.33					
水痘	0.55	0.64	0.42	0.45	0.61	0.73					
手足口病	0.70	0.79	0.85	1.12	1.21	1.00					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.03	0.06	0.06	0.06	0.03					
突発性発しん	0.64	0.67	0.91	0.64	0.70	0.52					
百日咳	0	0	0	0.03	0	0					
風しん(三日はしか)	0	0.03	0	0	0	0					
ヘルパンギーナ	1.33	1.61	1.70	1.06	1.00	0.67					
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.61	1.18	0.85	0.91	0.64	0.52					
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	1.57	0.29	0.14	0.43	0.57	0.14					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	0.14	0.14	0	0.43	0.14	0					
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0.14	0					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第38週、9/19～9/25)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.61	2.86	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.21	0.14	0.33	0	0.60	0	0	0.50
感染性胃腸炎	1.33	3.71	2.67	0.25	0	0	0.20	0
水痘	0.73	1.14	0.50	0.50	1.40	1.00	0	0
手足口病	1.00	0.86	1.33	1.75	1.60	0.25	0	1.50
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0.14	0	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.52	0.86	0.83	0.25	0	0.50	0.20	1.00
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0.67	1.71	0.33	0.25	0	0.25	0.20	2.50
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.52	0.57	0.67	1.25	0.80	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.14	0	1.00	0	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

咽頭結膜熱は3週連続して減少していますが大津ではやや多い状態となっています。感染性胃腸炎は先週増加を示した草津でかなり少なくなっていますが、今週も大津および草津では多い状態が続いています。また、伝染性紅斑は大津から、流行性角結膜炎は草津からそれぞれ1名ずつ報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

\* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間の単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

\* 疾患により定点数は異なります。

### 3) 今週のトピックス

#### 水痘の発生は微増傾向持続 流行性耳下腺炎の発生は減少傾向

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(9月12日～9月18日)の報告数よりかなり少なくなっています。増加を示した疾患は水痘のみで、大部分の疾患は減少または変化しとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、全数報告感染症についてはレジオネラ症の届出が1名ありました。

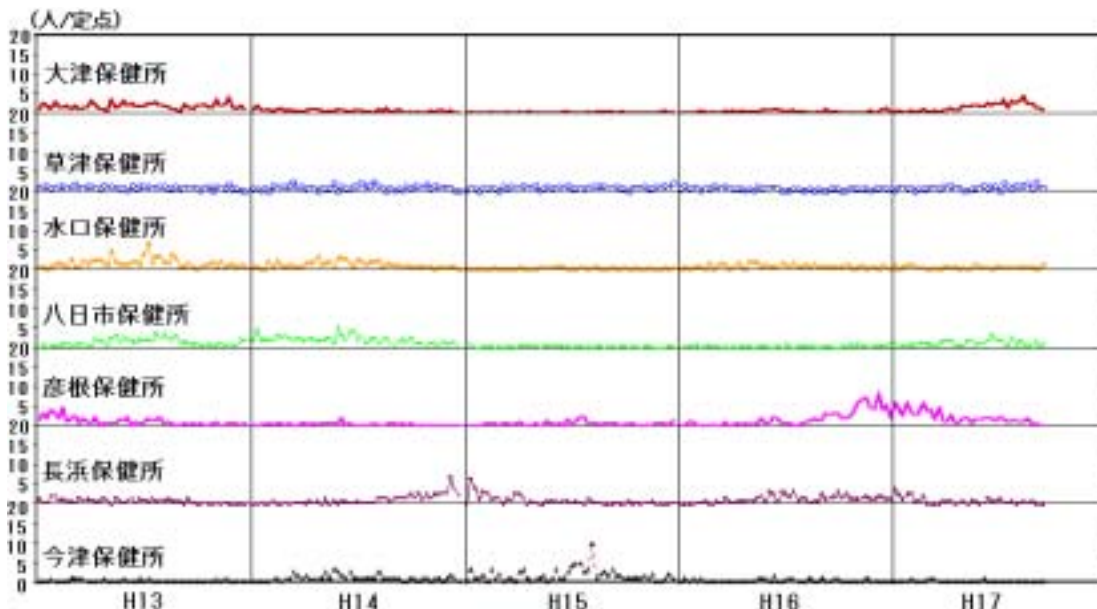
**水痘**については、第36週(9/5～9/11)以降微増傾向を示し定点当たり患者数は0.73となっています。昨年同時期の定点当たり患者数0.42より多くなっており、また、昨年より早い時期から増加傾向を示しているため今後の発生状況に注意する必要があります。

**手足口病**については、第33週(8/15～8/21)以降再び増加傾向を示していましたが、今週の定点当たり患者数は先週の定点当たり患者数1.21より減少し1.00となっています。

**ヘルパンギーナ**については、先週に引き続き減少し定点当たり患者数は0.67となっていますが今津保健所管内では2.50と多くなっています。

**流行性耳下腺炎**(おたふくかぜ)については、先週の定点当たり患者数0.64よりさらに減少し0.52となっていますが水口保健所管内では1.25と多くなっています。

#### 流行性耳下腺炎の保健所管内別発生状況(平成13年第1～平成17年第38週、H13.1.1～H17.9.25)



平成13年から平成17年の発生状況は上記のグラフに示すとおりです。平成16年および17年の発生状況についてみると、草津、水口および今津保健所管内では平成16年と平成17年の発生状況に大きな違いはみられません。彦根および長浜保健所管内では平成16年の後半から平成17年の前半にかけて増加しています。また、大津および八日市保健所管内では平成16年より多く発生しており、特に大津保健所管内では平成17年第13週(3/28～4/1)から第38週(9/19～9/25)までは昨年の同時期より多く発生しています。

また、平成17年第1～38週における年齢別の発生状況については、0～1歳が4.2%、2～3歳が22.5%、4～5歳が35.5%、6～7歳が21.1%、8～9歳が9.9%、10～14歳が5.4%、15～19歳が0.4%および20歳以上が1.3%となっており2～7歳が発生の中心となっています。7歳以下が全報告数の80%以上、9歳以下が全報告数の90%以上を占めており全国の年齢別発生状況とほぼ同様の傾向を示しています。

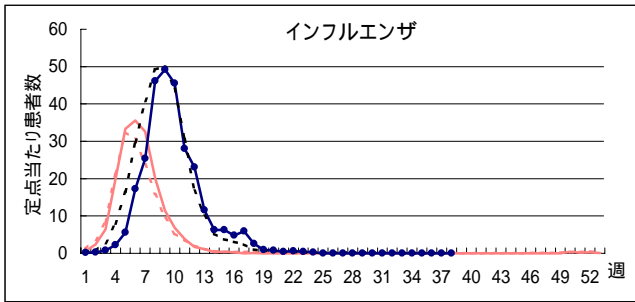
#### 定点把握の対象となる5類感染症における上位5疾患の保健所管内別発生状況

(平成17年第38週、H17.9.19～H17.9.25)

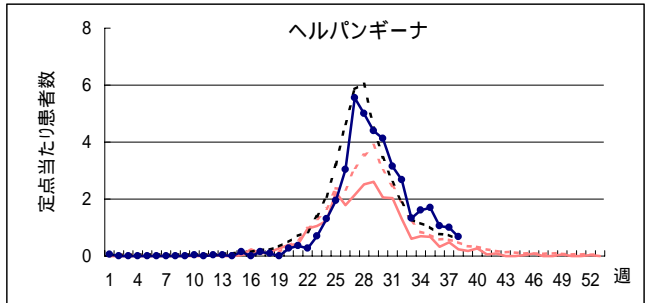
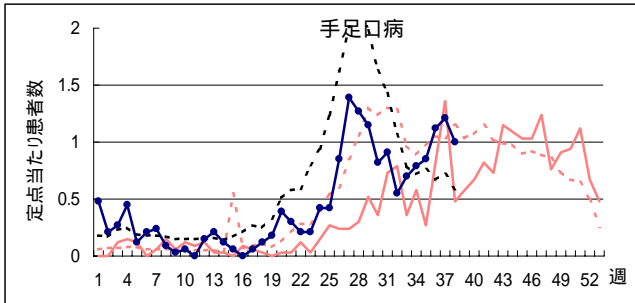
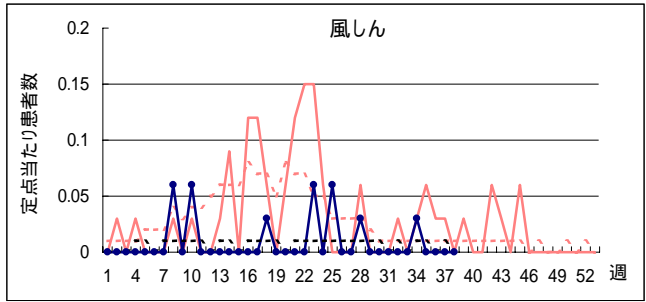
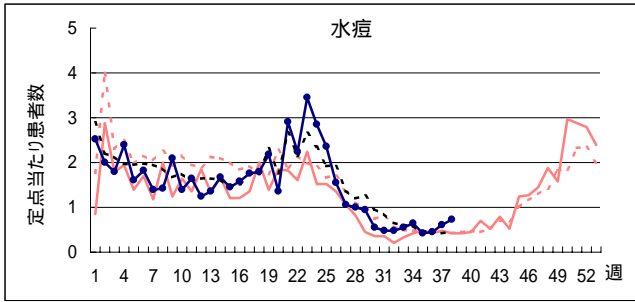
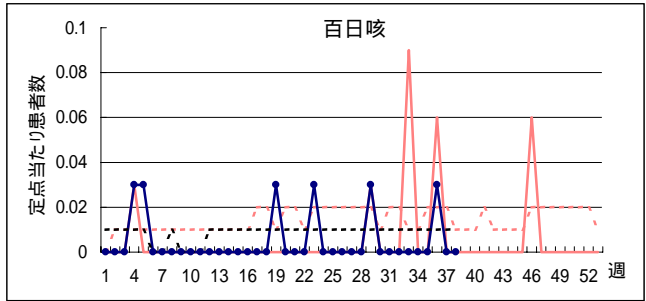
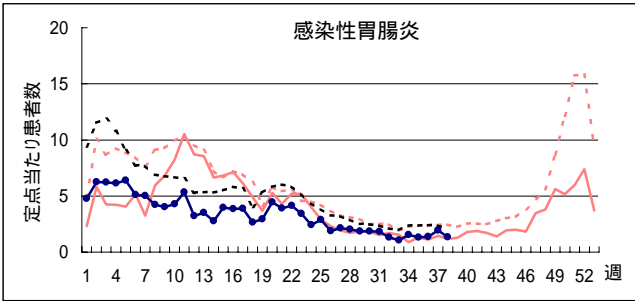
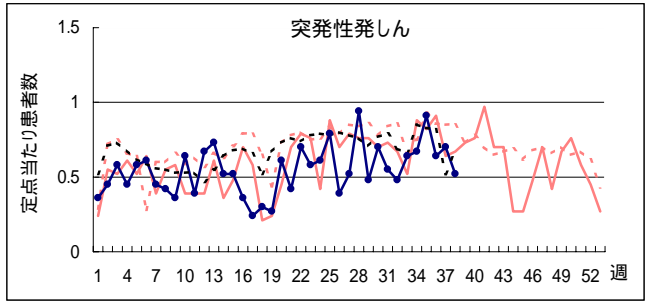
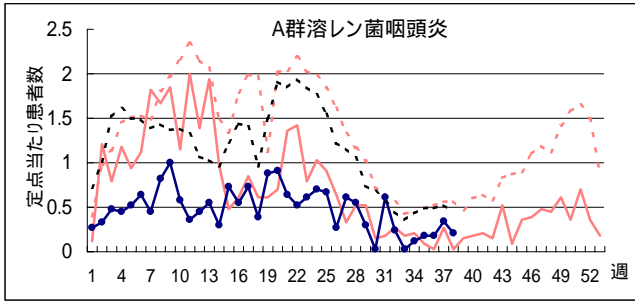
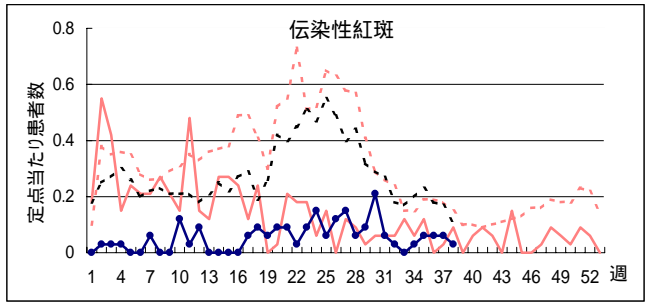
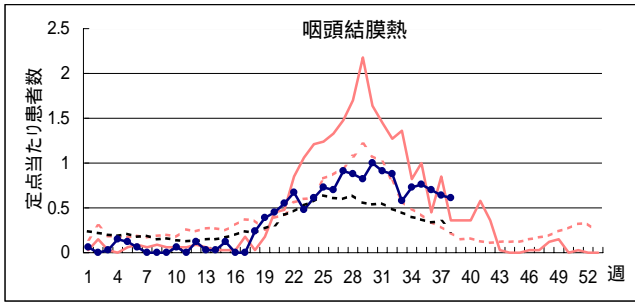
県全体における上位5疾患の発生状況については、感染性胃腸炎、手足口病、水痘、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順に多く発生しており、定点当たり患者数はそれぞれ、1.33、1.00、0.73、0.67および0.61となっています。特に、感染性胃腸炎は大津および草津で、手足口病は水口および八日市でやや多くなっています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第38週、H17.1.3～H17.9.25)



H16 { 滋賀 (solid red line)  
       全国 (dotted red line)  
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)  
       全国 (dotted black line)



# 疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第38週、H17.1.3～H17.9.25)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

